



「すみだまつり・こどもまつり」で広報活動



東京地方協力本部江東出張所（所長 飯野3海佐）は10月5日・6日の2日間、墨田区錦糸公園で開催された「第44回すみだまつり・第49回こどもまつり」において、東京都隊友会墨田支部の支援を受け広報活動を実施した。

このイベントは、区民の交流により「ふるさとすみだ」の意識を高め地域の振興を図ると共に、子供の安全と健康を願い、連携と友情を育むことを目的としており、今年は両日合わせて約30万人が来場した。

江東出張所の広報ブースでは航空自衛隊の航空機ブルーインパルスのパイロット気分が味わえるVR（バーチャルリアリティ）コーナーを設置し、VRゴーグルを初めて体験した子供たちやその家族は、ブルーインパルスの操縦席に座った感覚で上下左右360度を見回したり、マッハ約0.9のスピードを疑似体験し「貴重な体験ができて良かった」「自衛隊パイロットの凄さがわかった」等の感想が聞かれた。また、自衛隊の制服や迷彩服の試着体験コーナーには子供サイズのミニ制服等を準備し、来場した多くの子供たちが制服を着て写真撮影を行っていた。当時は台風15号に係る災害派遣として部隊が活動中でもあり、来場者からは「自衛隊さん、これからも頑張ってください」との励ましの言葉も聞かれた。

江東出張所は、今後も地域に密着した募集・広報活動を実施するとともに、部隊等と連携を密にして、防衛省・自衛隊の活動に対する東京都民の理解と関心を高め、自衛官募集業務に繋げていくとしている。

ヘリ体験搭乗で能力を体感



東京地方協力本部（本部長 岸良陸将補）は10月20日、陸上自衛隊立川駐屯地において、東部方面ヘリコプター隊第1飛行隊の支援を受け、航空機体験搭乗を実施した。

これは募集対象者等に対し、陸上自衛隊ヘリコプターの体験搭乗を通じて保有能力の一端を体感してもらうことにより、自衛隊に対する親近感を醸成し、理解と認識を深めてもらうことを目的としている。

当日は80名が参加し、UH-1の1番機、2番機及びフライト別の搭乗区分に分かれ、1フライト約20分の飛行経路を区分ごとに順番に体験搭乗した。搭乗を終えた参加者は「地上の様子がまるで地図を見るように、あつという間に小さくなったが、その速さを感じられないくらい機体が安定していた」「台風19号による河川の増水跡を確認することができた。上空からの情報の重要性を感じた」等、興奮した様子で話し、航空学生を目指しているという男性は、「初めて自衛隊のヘリコプターに乗ったがパイロットへの憧れが更に増した」と目を輝かせていた。

また、2番機の誘導は、この春に東京地本立川出張所を通じて入隊し、航空機整備員として9月に部隊配置されたばかりの阿部紗弓2等陸士が担当しており、その落ち着いた行動と、参加者に対して明るく丁寧に機材説明をする姿に接した女性参加者らは、「女性が活躍しているところを実際に見ることができて良かった」と感激した様子であった。

東京地本は、今後も体験搭乗や体験航海、各種広報イベント等を通じ、一人でも多くの方に自衛隊の活動に対する理解と関心を深めていけるよう広報活動を実施していくとしている。